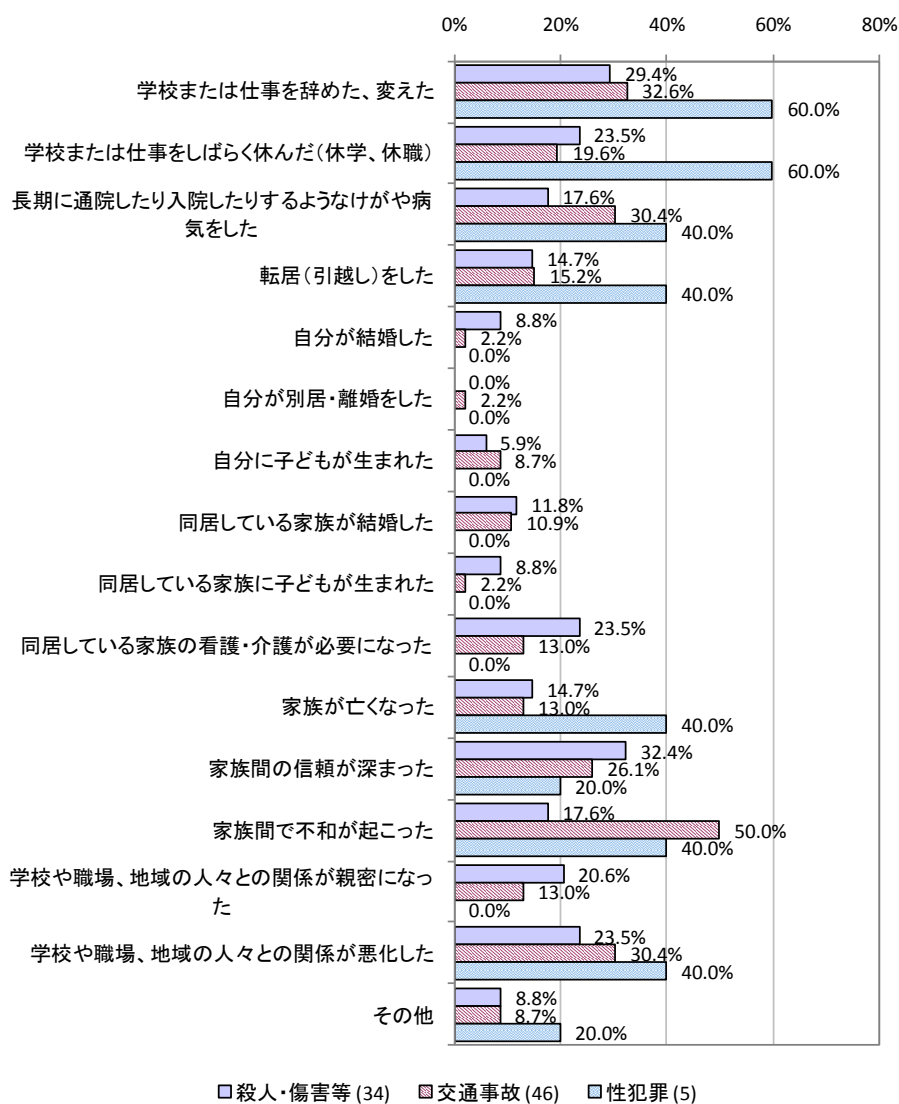


2-2-4 生活状況について

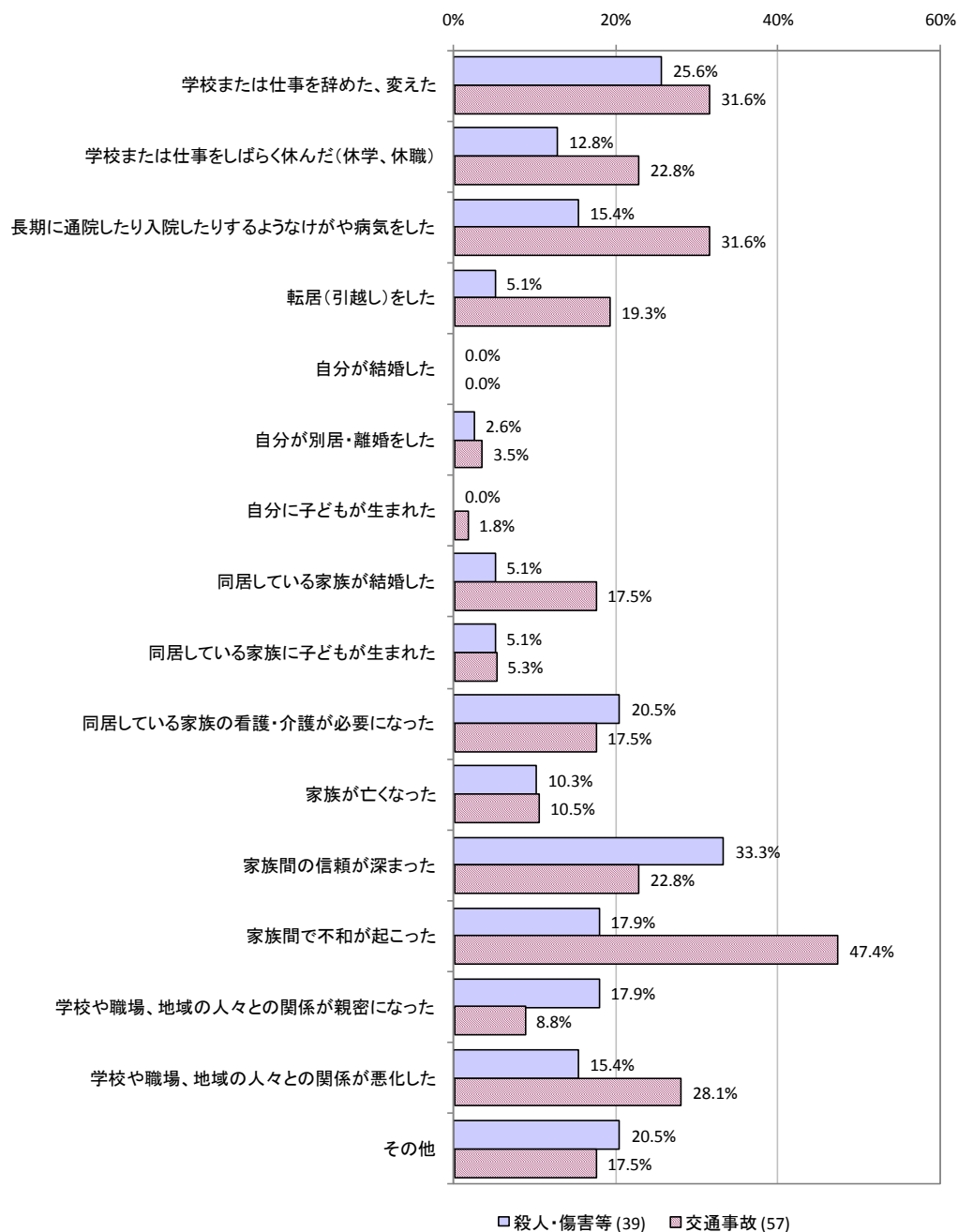
(1)この1年間の生活上の変化（パネル調査_問11）

この1年間の生活上の変化を質問したところ、殺人・傷害等では「家族間の信頼が深まった」が32%と最も多く、次いで「学校または仕事を辞めた、変えた」が29%である。交通事故では、「家族間で不和が起こった」が50%と最も多く、「学校または仕事を辞めた、変えた」(33%)が次いで多い。また、いずれの類型においても、起こった生活上の変化と事件との関連性はあるとする回答者がほとんどである。交通事故における「家族間で不和が起こった」の割合は、平成19年度から平成21年度にかけて一貫して5割前後に達している。

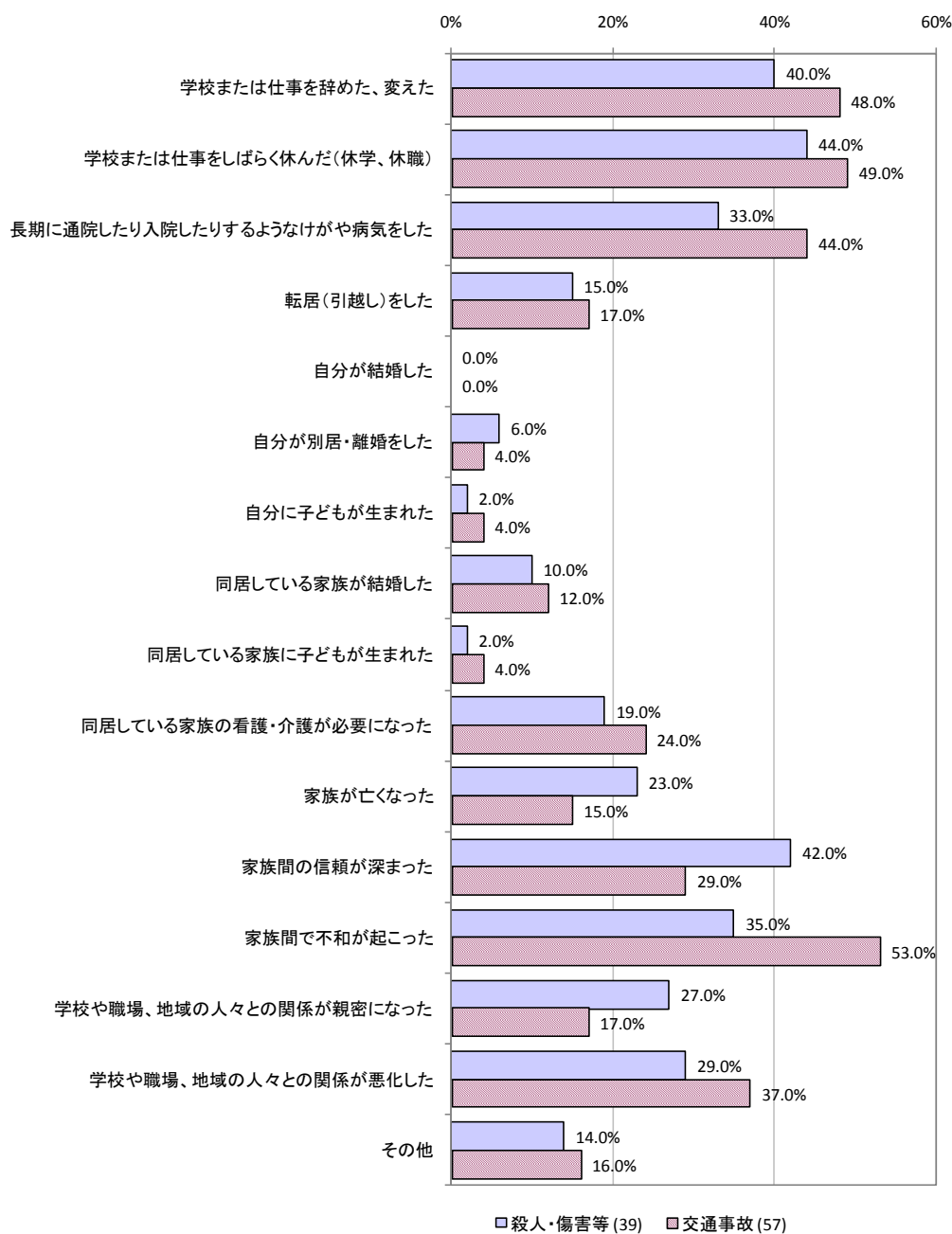
図表 2-52 被害類型×生活上の変化（平成21年度）



図表 2-53 被害類型×生活上の変化（平成20年度）



図表 2-54 被害類型×生活上の変化（平成19年度）



※平成19年度の数値は、「事件から現在（平成19年度調査時点）までに経験した出来事」であることに留意。

図表 2-55 この1年間の生活上の変化と事件との関連性（平成21年度）

	殺人・傷害等		交通事故		性犯罪	
	変化があったとする件数	事件との関連性がある	変化があったとする件数	事件との関連性がある	変化があったとする件数	事件との関連性がある
学校または仕事を辞めた、変えた	10	6	15	13	3	2
学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）	8	6	9	9	3	3
長期に通院したり入院したりするよう なけがや病気をした	6	5	14	12	2	2
転居（引越し）をした	5	2	7	4	2	1
自分が結婚した	3	1	1	0	0	1
自分が別居・離婚をした	0	0	1	1	0	0
自分に子どもが生まれた	2	0	4	0	0	0
同居している家族が結婚した	4	0	5	0	0	0
同居している家族に子どもが生まれた	3	0	1	0	0	0
同居している家族の看護・介護が必要 になった	8	3	6	4	0	0
家族が亡くなった	5	2	6	2	2	1
家族間の信頼が深まった	11	9	12	9	1	1
家族間で不和が起こった	6	5	23	2	2	2
学校や職場、地域の人々との関係が 親密になった	7	3	6	3	0	1
学校や職場、地域の人々との関係が 悪化した	8	7	14	13	2	1
その他	3	1	4	3	1	1

※数字は実数である。

図表 2－56 この1年間の生活上の変化と事件との関連性（平成20年度）

	殺人・傷害等		交通事故		性犯罪	
	変化があったとする件数	事件との関連性がある	変化があったとする件数	事件との関連性がある	変化があったとする件数	事件との関連性がある
学校または仕事を辞めた、変えた	10	5	18	14	1	1
学校または仕事をしばらく休んだ（休学、休職）	5	5	13	11	1	1
長期に通院したり入院したりするよう なけがや病気をした	6	5	18	15	2	2
転居（引越し）をした	2	2	11	7	1	1
自分が結婚した	0	0	0	0	1	0
自分が別居・離婚をした	1	1	2	2	0	0
自分に子どもが生まれた	0	0	1	1	0	0
同居している家族が結婚した	2	0	10	1	0	0
同居している家族に子どもが生まれ た	2	0	3	0	1	0
同居している家族の看護・介護が必要 になった	8	4	10	6	0	0
家族が亡くなった	4	2	6	0	2	0
家族間の信頼が深まった	13	7	13	10	2	2
家族間で不和が起こった	7	7	27	26	0	0
学校や職場、地域の人々との関係が 親密になった	7	4	5	5	1	0
学校や職場、地域の人々との関係が 悪化した	6	5	16	15	1	1
その他	8	7	10	8	1	1

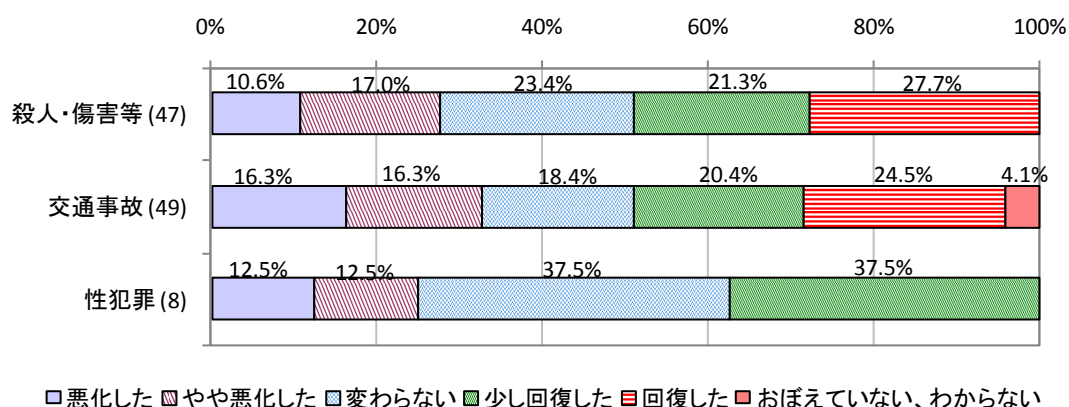
※数字は実数である。

※平成19年度は、「この1年の生活上の変化」の設問がないため割愛。

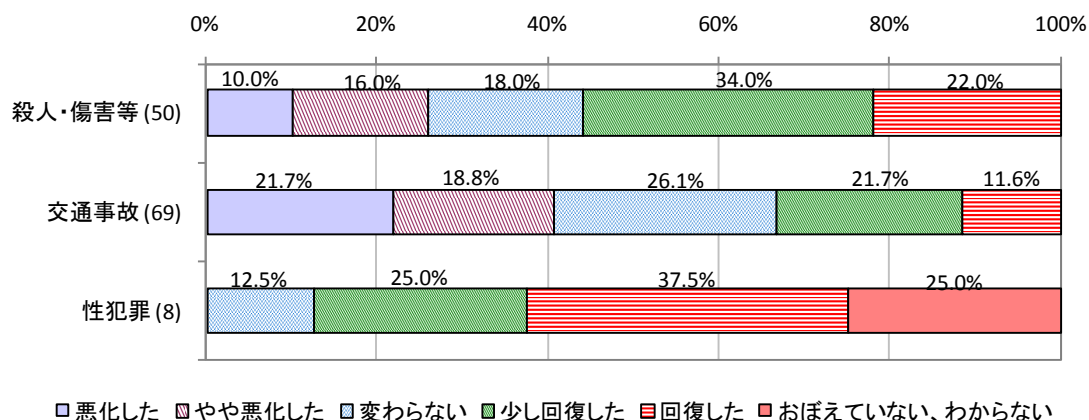
(2)事件直後と比較した身体状況の変化（パネル調査_問 12）

事件直後と比較した身体状況について質問したところ、「少し回復した」、「回復した」とする人の割合は、殺人・傷害等で49%、交通事故で45%、性犯罪で38%である。一方、「悪化した」、「やや悪化した」とする人は、殺人・傷害等で28%、交通事故で33%、性犯罪で25%である。経年により、「悪化した」、「やや悪化した」とする割合が減少傾向にあることがわかる。

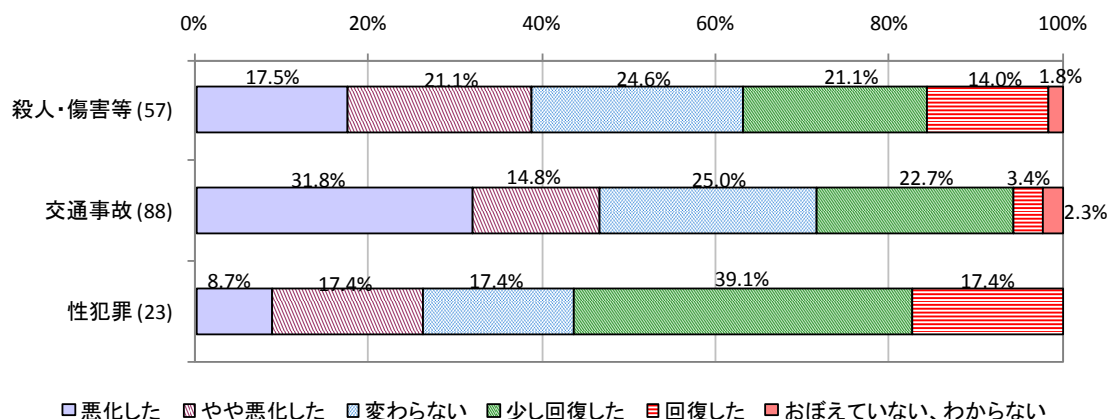
図表 2－57 被害類型×身体状況の変化（平成21年度）



図表 2－58 被害類型×身体状況の変化（平成20年度）



図表 2-59 被害類型×身体状況の変化（平成19年度）

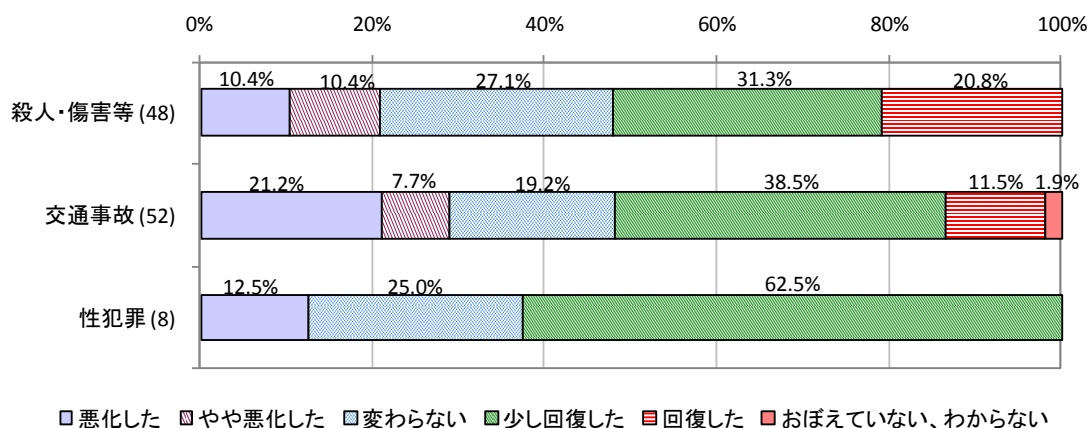


(3)事件直後と比較した精神状況の変化（パネル調査_問12）

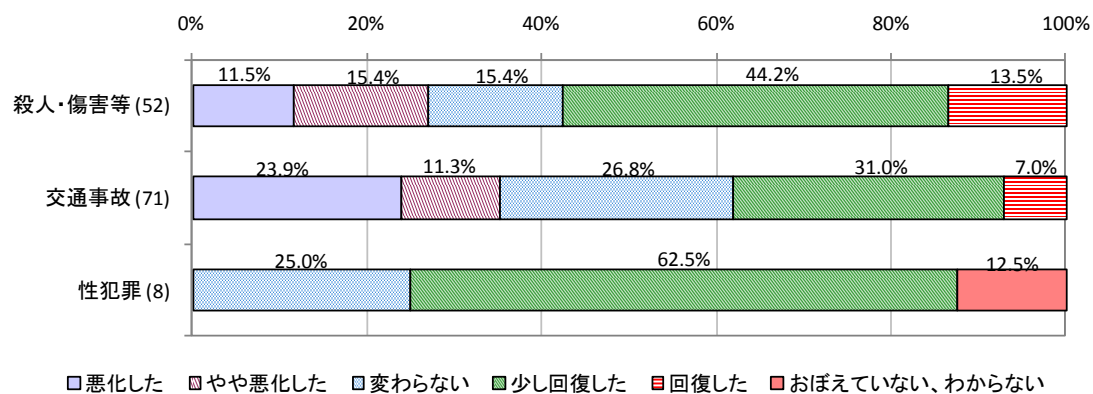
精神的な状況については、「少し回復した」、「回復した」とする人は、殺人・傷害等で52%、交通事故で50%、性犯罪で63%。「悪化した」、「やや悪化した」とする人の割合は、殺人・傷害等で21%、交通事故で29%、性犯罪で13%となっている。

経年により、「悪化した」、「やや悪化した」とする割合が減少傾向にあることがわかる。

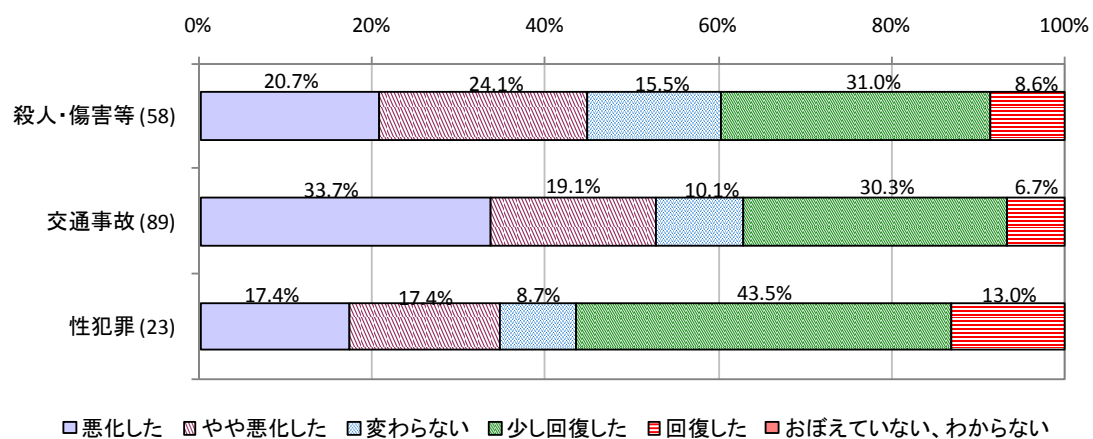
図表 2-60 被害類型×精神状況の変化（平成21年度）



図表 2－6 1 被害類型×精神状況の変化（平成 20 年度）



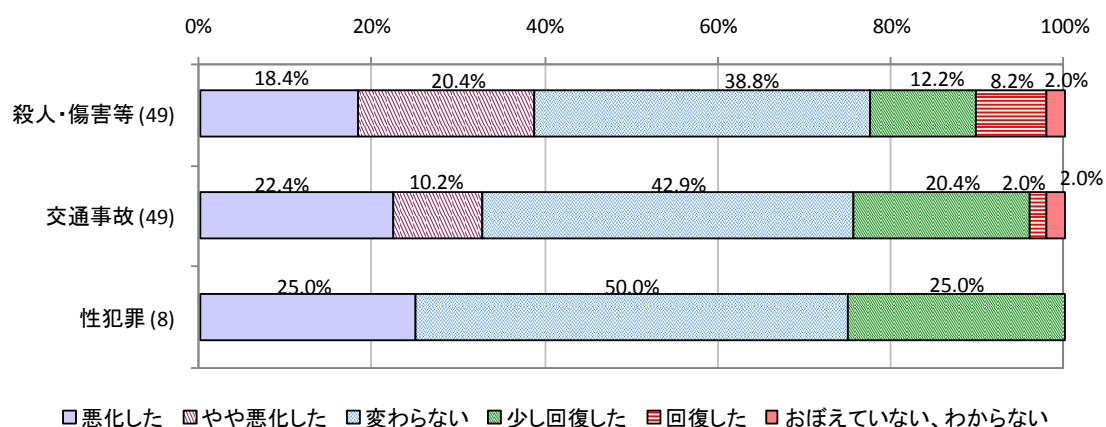
図表 2－6 2 被害類型×精神状況の変化（平成 19 年度）



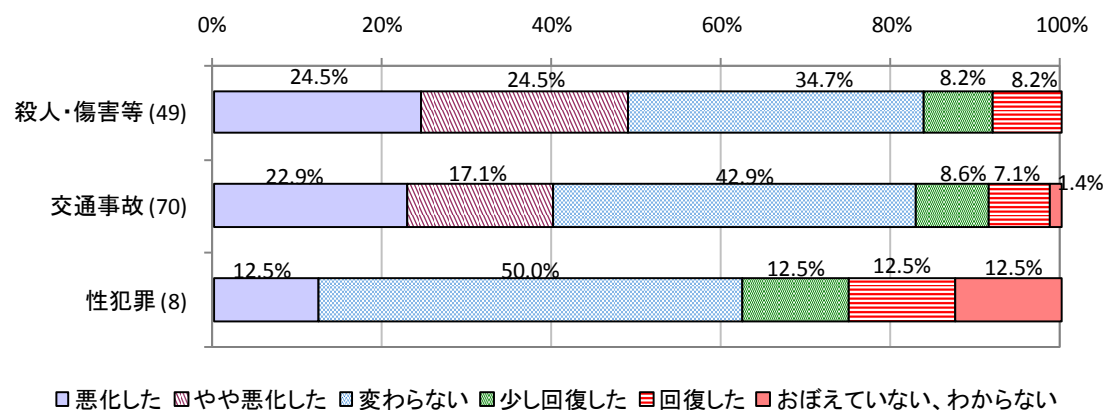
(4)事件直後と比較した経済状況の変化（パネル調査_問 12）

経済的な状況については、「少し回復した」、「回復した」とする人の割合がやや低く、殺人・傷害等で20%、交通事故で22%、性犯罪で25%にとどまり、「悪化した」、「やや悪化した」とする人の割合は、殺人・傷害等で39%、交通事故で33%、性犯罪で25%となっている。経年により、「悪化した」、「やや悪化した」とする割合が減少傾向にある。

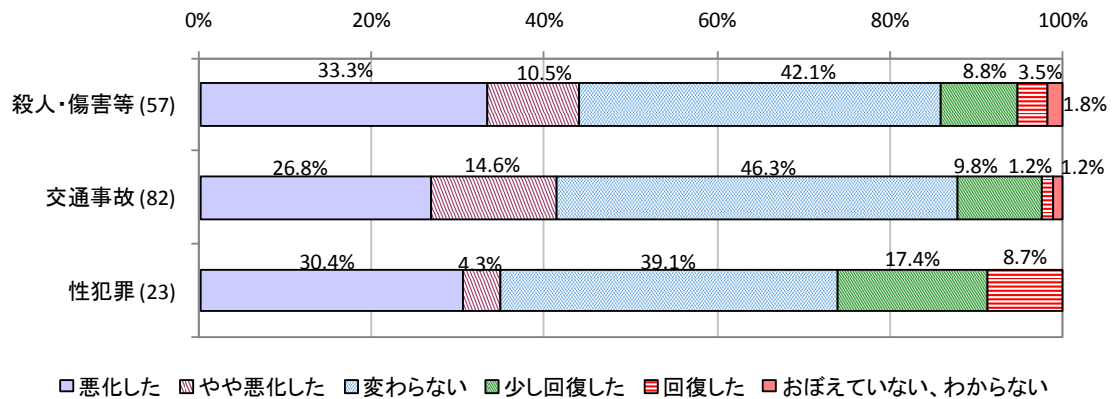
図表 2－63 被害類型×経済状況の変化（平成21年度）



図表 2－64 被害類型×経済状況の変化（平成20年度）



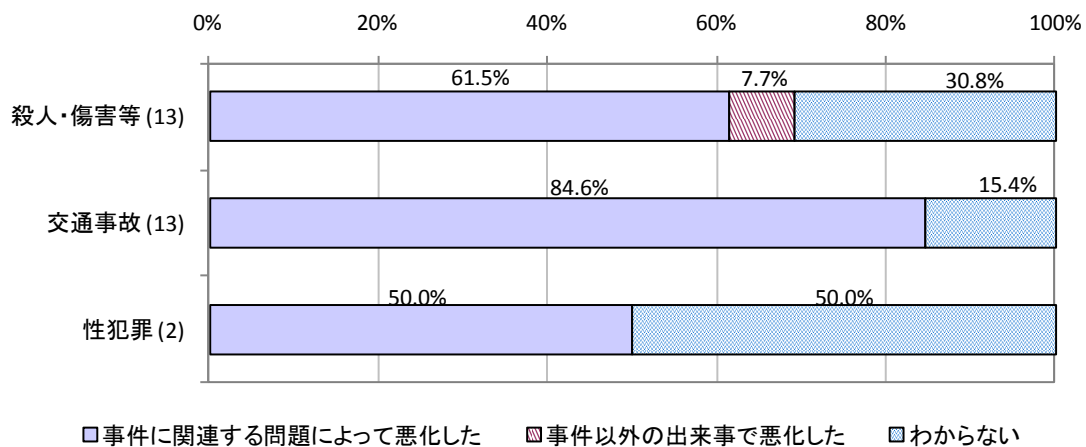
図表 2－65 被害類型×経済状況の変化（平成19年度）



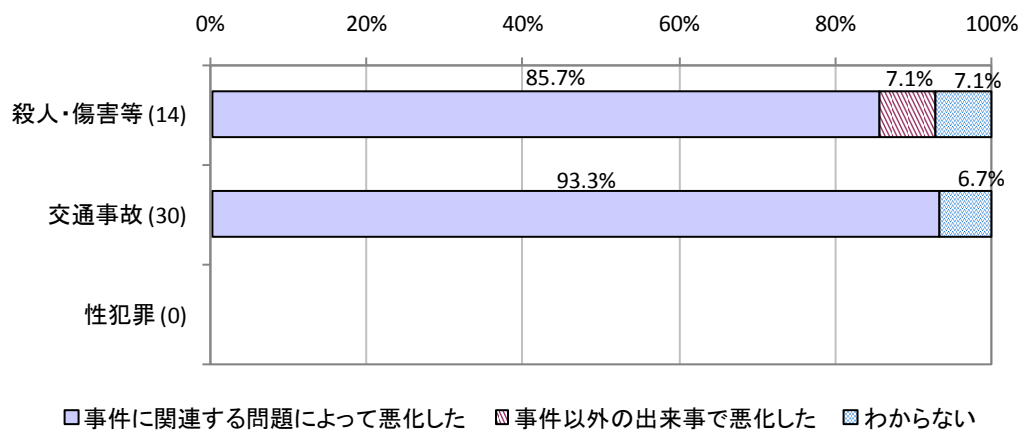
(5)身体状況の悪化と事件との関連性【ベース：身体状況が悪化したと回答した人】（パネル調査_問13）

事件直後と比較した身体状況について、「悪化した」、「やや悪化した」と回答した人に事件との関連性を質問したところ、「事件に関連する問題によって悪化した」と回答した人の割合は、殺人・傷害等で62%、交通事故で85%、性犯罪で50%となった。経年により、悪化要因と事件との関連性の割合が低くなっている。

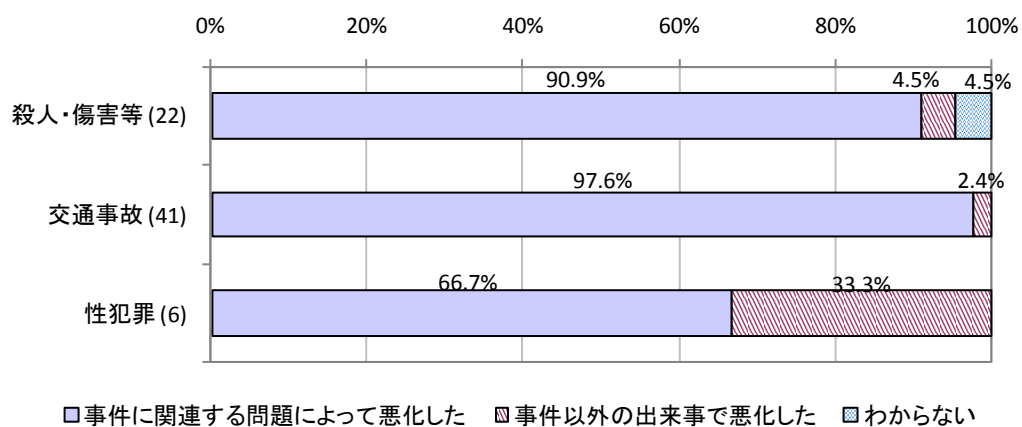
図表 2－66 被害類型×身体状況の悪化と事件との関連性（平成21年度）



図表 2－67 被害類型×身体状況の悪化と事件との関連性（平成20年度）



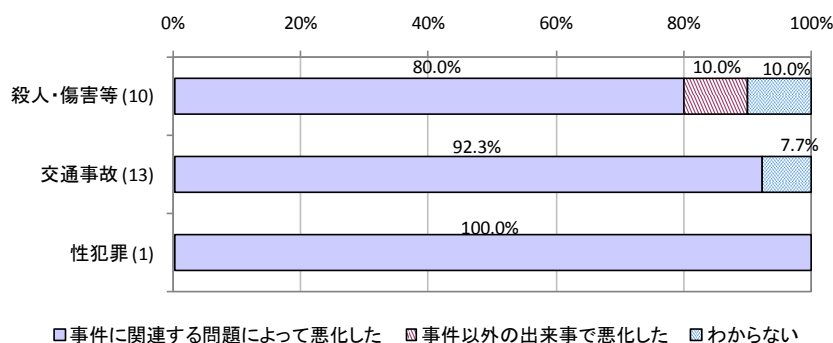
図表 2－68 被害類型×身体状況の悪化と事件との関連性（平成19年度）



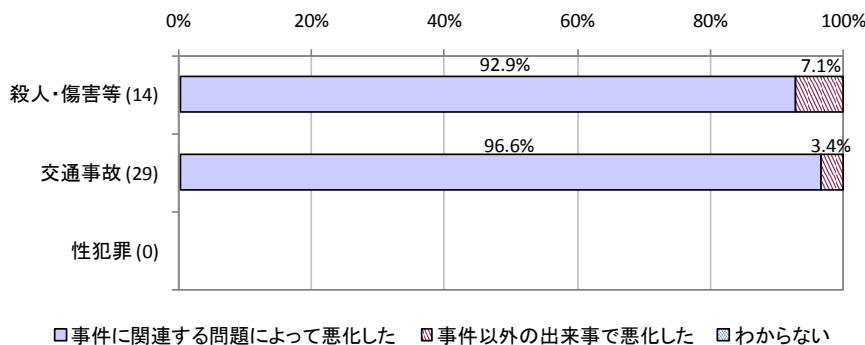
(6)精神状況の悪化と事件との関連性【ベース：精神状況が悪化したと回答した人】（パネル調査_問13）

事件直後と比較した精神状況について、「悪化した」、「やや悪化した」と回答した人に事件との関連性を質問したところ、「事件に関連する問題によって悪化した」と回答した人の割合は、殺人・傷害等で80%、交通事故で92%、性犯罪で100%であった。殺人・傷害等、交通事故ともに、経年により悪化要因と事件との関連性の割合が低くなっていることがうかがえる。

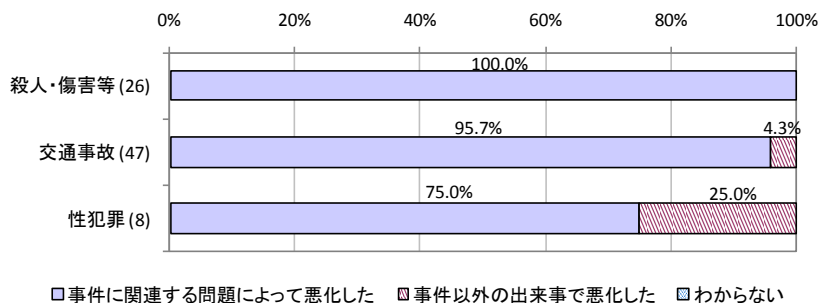
図表 2－69 被害類型×精神状況の悪化と事件との関連性（平成21年度）



図表 2－70 被害類型×精神状況の悪化と事件との関連性（平成20年度）



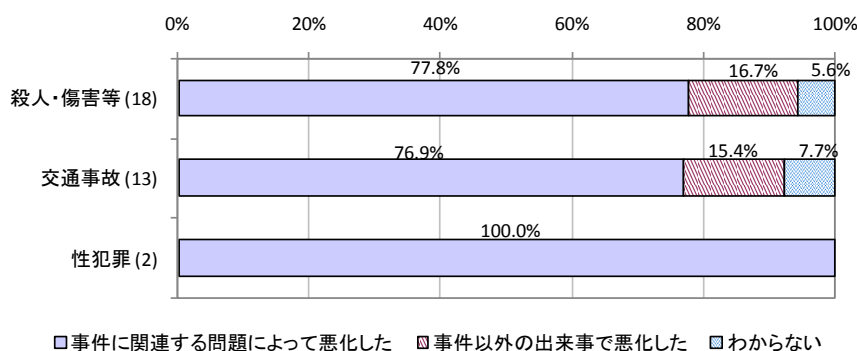
図表 2－71 被害類型×精神状況の悪化と事件との関連性（平成19年度）



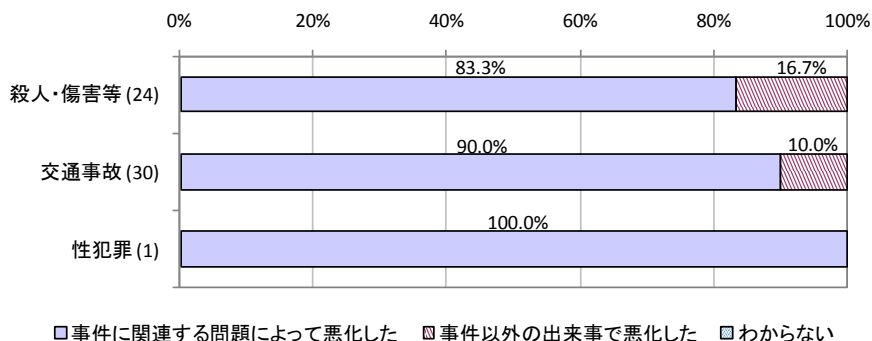
(7)経済状況の悪化と事件との関連性【ベース：経済状況が悪化したと回答した人】（パネル調査_問13）

事件直後と比較した経済状況について、「悪化した」、「やや悪化した」と回答した人に事件との関連性を質問したところ、「事件に関連する問題によって悪化した」と回答した人の割合は、殺人・傷害等で78%、交通事故で77%、性犯罪で100%であった。殺人・傷害等、交通事故ともに、経年により悪化要因と事件との関連性の割合が低くなっている。

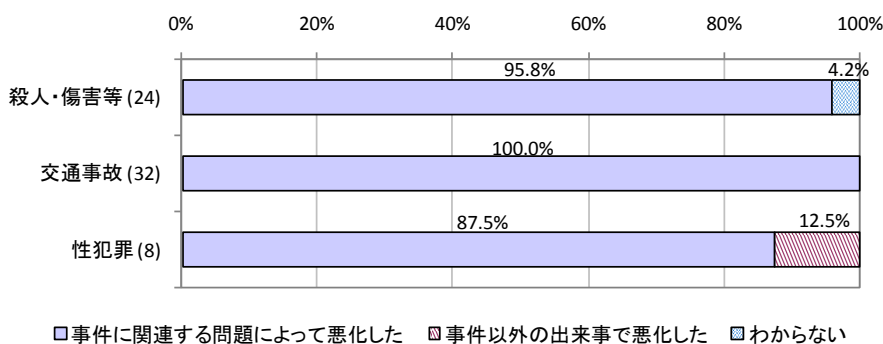
図表 2-7-2 被害類型×経済状況の悪化と事件との関連性（平成21年度）



図表 2-7-3 被害類型×経済状況の悪化と事件との関連性（平成20年度）



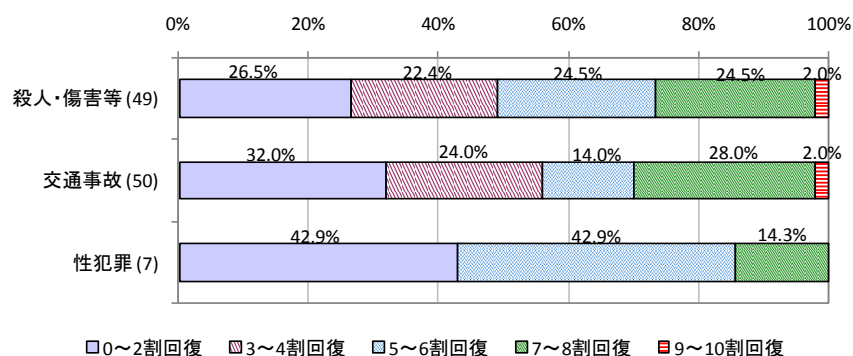
図表 2-7-4 被害類型×経済状況の悪化と事件との関連性（平成19年度）



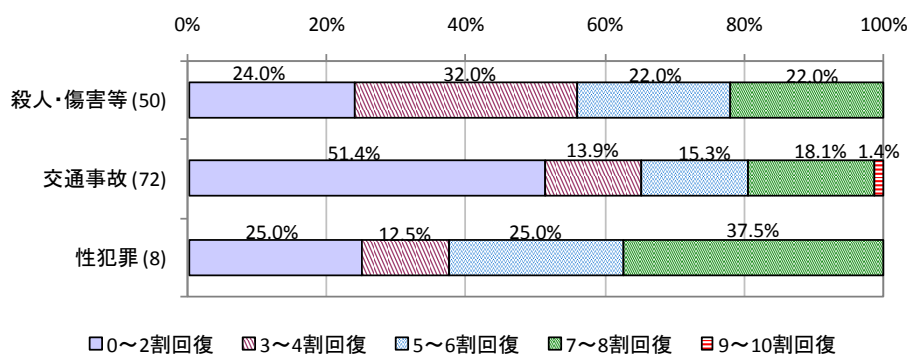
(8)現在の主観的な回復度合（パネル調査_問14）

現在の主観的回復度（※）について質問したところ、いずれの被害類型でも「9～10割回復した」割合は2%以下である。一方で、0～2割しか回復していない割合は、殺人・傷害等で27%、交通事故で32%。性犯罪で43%となっている。全ての被害類型で、主観的回復度が年々良好になっているが、「9～10割回復」した割合は、いずれの年でも5%に達しない。
※主観的回復度については7～8頁の注を参照。

図表 2－75 被害類型×主観的回復度合（平成21年度）



図表 2－76 被害類型×主観的回復度合（平成20年度）



図表 2－77 被害類型×主観的回復度合（平成19年度）

